

月例会の概要

情報セキュリティ心理学研究
代表：内田 勝也

2014年度

1. 情報セキュリティ心理学にもとづくリスク管理技術について

日時：2014年4月18日

報告者：氏田 博士

内容：① 情報セキュリティ心理学にもとづくリスク管理技術について：2年間にわたり、電気学会の研究会活動として行ってきた検討結果の報告です。
② 電気学会の研究会として、「情報セキュリティ心理学」を立ち上げることになり、本研究会とも連携・協力することになった。

2. セキュリティと騙しを考える

日時：2014年5月15日

報告者：内田 勝也

内容：セキュリティと騙し（ダマシ）を考える
情報セキュリティ分野での攻撃（ソーシャルエンジニアリング）では、騙すことが、大変重要になっている。どの様な騙しが行われるかについて、考えてみた。

3. セキュリティと騙しを考える（2）

～ インシデントからみた騙し ～

日時：2014年6月13日

報告者：内田 勝也

内容：実際に起こったインシデントから、騙しを考察する。ソーシャルエンジニアリング、マルウェア、フィッシング等に多くのインシデントがありますが、それらを少し別の角度から考えたものです。

4. 情報セキュリティと犯罪心理学

日時：2014年7月17日

報告者：内田 勝也

内容：一般の犯罪分野での考え方についても、情報セキュリティへの敷衍も可能です。今回は、犯罪分野の考え方を情報セキュリティに適用することを考えてみた。

5. 日本心理学会大会の報告

日時：2014年9月19日

報告者1：高橋 優

テーマ：キーボード形式の違いがパスワードの強度に及ぼす影響

内容：スマートフォンやタブレットの普及にともない、タッチスクリーン上に表示されるソフトウェアキーボード（以下SWキーボード）からのパスワードの入力や設定が一般的になった。SWキーボードはスクリーンの限られた領域にキーボードを表示するため、PCのキーボードと比べるとキーの数が少なく、数字や記号の入力時には表示盤面の切り替えが必要となる。また、スマートフォンではキーのサイズも小さい。
こうした特性はパスワード入力時のユーザの負担を高めるため、ユーザは負担を下げるためにパスワードを簡素化する可能性がある。本研究では、新規にパスワードを設定する場面を設定し、生成されるパスワードの特性がスマートフォン・タブレット・PCといったアプライアンスによってどのように変化するかを検討した。

報告者2：上田 卓司

テーマ：パスワード生成・管理における規範意識と実践の関係

内容：適切にパスワードを作成し管理することは、情報化された現代社会においては基本的な「守るべき規範」であり、情報モラル教育の一環として取り上げられるべき事項として扱われている。しかし過去に発生した大規模なパスワード漏洩事象からは、多くのユーザは極めて安

月例会の概要

情報セキュリティ心理学研究

代表：内田 勝也

易で脆弱な文字列を選択していることが窺え、またこの点は我々がこれまでに行ってきたパスワード生成特性に関する研究からも指摘できる

本研究では他の領域における規範意識との比較を行いながら、パスワード生成・管理における、主観的な規範意識と実践の程度の関係性を調査し検討した。

6. 認証をどう考えていくのか？

～ Reusable passwords never die! ～

日 時： 2014年10月22日

報告者：内田 勝也

内 容： パスワードの話は、考えると奥の深いものがあります。90年代の終わりころに、某IT関連の調査企業が、現在のID/PW方法（Reusable password等と言われていますが）は、数年以内になくなるという予測を出しましたが、見事、予測が外れ、15年以上経った現在でも最も利用されている認証方式と言えます。

現在のPW方式に問題があることは誰もが認める所ですが、決定的なものがでてきません。いくつかのメリットがあるからだと思っています。

そのようなことを踏まえて、PWについて、位置記憶方式の正しい使い方や生体認証、その他の方法等について考察する。

7. 情報セキュリティ心理学が考えるべきこと（その1）

日 時： 2014年11月21日

発表者：上田 卓司（早稲田大学）

内 容： 情報セキュリティ心理学について何を考える必要があるのかについて情報処理心理学の講義を行っている心理学研究者としての立場からの報告

8. 情報セキュリティ心理学が考えるべきこと（その2）

日 時： 2014年12月19日

発表者：内田 勝也（情報セキュリティ大学院大学）

内 容： なぜ、情報セキュリティ心理学研究会を立ち上げるに至ったのか。また、情報セキュリティ心理学について情報セキュリティ研究者として何を考えているのかについて報告する

9. ゲーミフィケーションについて（その1） ～ 心理学的な要素を考慮した教育・訓練、周知 ～

日 時： 2015年01月23日

発表者：内田 勝也（情報セキュリティ大学院大学）

内 容： ゲーミフィケーションについては、最近はこちらで利用されてきましたが、その1つとして、情報セキュリティ教育訓練や周知に利用することが可能との判断ができています。ゲーミフィケーションでは、心理学等の要素を利用しており、その辺りを含めて、報告する。

10. 情報セキュリティに貢献するゲーミフィケーション

日 時： 2015年02月26日

発表者：上田 卓司（早稲田大学）

内 容： 国内におけるゲーミフィケーションの現状とゲーミフィケーションの定義と歴史を国内の状況等を中心に報告を行った。

(以上)